

フィリピン便り

2015.4.30

中田幸美

配属先：フィリピン共和国 ア克蘭州 リバカオ町役場 農業事務所

職種：野菜栽培（有機農業）

JICA の青年海外協力隊短期派遣隊員として、現職場に所属したままの参加を許され、昨年 11 月下旬にフィリピン共和国に赴任しました。活動期間は 6 ヶ月間です。私の任地は、首都マニラから南西に 300 km ほどのところにあるパナイ島北部のリバカオ町です。人口約 2 万 8 千人の農村地帯です。2013 年 11 月にフィリピンを襲ったスーパー台風ヨランダにより大きな被害を受けました。農家にとって大事な主要生産物であるココやし、アバカ（マニラ麻）がなぎ倒されてしまい、再び収穫できるようになるには何年もかかってしまいます。台風後、彼らの収入は激減してしまいました。そこで、町として有機農業による野菜栽培を普及して農民の生計を向上していくという方針になり、急遽復興支援の一環として短期ボランティアの要請がなされました。リバカオ町では多くの農家が野菜を栽培していますが、自家用であり、販売して現金収入を得るには至っていません。有機農業により付加価値の高い野菜の生産を目指しています。

私が赴任した当初、対象地区では野菜試験栽培用の畑がなく、地元の農家から土地を借り、バナナ畑の抜根・整備から始めました。今では畑が整備され、農機具管理小屋と育苗ハウスも完成しました。有機農業の講義や堆肥・ボカシ（有機質肥料）作り等の実践トレーニングも行っていきます。農民はボカシに興味を示し、今後は町全体へボカシを普及していきたいと、自ら提案するまでに意識が変化してきました。

		
バナナの抜根作業	圃場が整い、農機具管理小屋も完成！	ボカシ作りの実践トレーニング

日常の活動の他に楽しみなことは、伝統行事への参加です。1 月には Ati-atihan（アティアティハン）という、宗教的なお祭りが、私の任地から車で 1 時間程の州都のカリボ市で行われます。お祭りは一週間続き、その中の一日は LGU day（地方地自体の日）があり、ア克蘭州全ての市町村が参加します。私も役場の仲間と共にお揃いの T シャツを着て街を練り歩きました。

4 月にはフィリピンで有名なリゾート地の一つであるボラカイ島で市場調査を行いました。いくつものマーケットやホテル、レストランを訪ね、どのような野菜が売れ筋なのか調査し、需要の高い野菜をリバカオ町で生産し、有機栽培であることに付加価値をつけて販売していくという

計画です。

活動期間も残り僅かとなりました。ボカシや自然農薬の作り方などの技術が町の農家に広く伝わり、有機農業が普及してより多くの農民によって栽培されることを願っています。

		
<p>お揃いの T シャツで街中を行進</p>	<p>お祭りで着飾った衣装</p>	<p>ボラカイ島のマーケット</p>